

生物調査に係る 情報発信について

令和5年度川崎市環境総合研究所有識者懇談会

2024.2.9

情報発信の狙いと実績

ねらい

市民の興味を引き付ける生物（水辺の生きもの）の調査研究結果について積極的に情報発信することにより市民への普及啓発を行い、水環境への関心を高めてもらい、水環境の保全に向けた行動を促す。

実績

報道発表

- ・かわさきの海で珍しい生きものを発見

川崎みなと祭りでの出展

- ・スナイプバレー合同会社との連携した調査結果の発信
- ・アサリの回復に向けた取組

啓発動画の作成

- ・かわさきの水辺の生きものについて（中流編）

報道発表 2023.7.11



報道発表資料

かわさきの海で珍しい生きものが見つかりました

川崎港の東扇島周辺の海域ではこれまで定期的に生物調査を行ってきました。令和元年度から4年度まで調査した結果、37種類の魚類を確認し、そのうち初発見となったものが3種類でした。この3種類は東京湾の外洋が生息域である珍しい種でした。また、これまでわずかしら確認できなかったアマモを多数確認しました。近年、川崎の海は水環境の改善が進んでおり、様々な生き物が生息しています。

1 外洋の魚類を初確認

令和元年度から令和4年度までの調査で、主たる分布域が東京湾の外側（外洋）であるクツワハゼを初確認しました。また、東京湾より南方の暖かい海に生息するセグロチョウチョウウオ、カスミフグを初発見しました。これは、近年の黒潮大蛇行により東京湾に黒潮が流れ込みやすくなっていることから、暖かい海に生息する個体が確認された可能性があります。

クツワハゼ



セグロチョウチョウウオ



カスミフグ



出展：国土地理院（一部改変）

アマモは「海のゆりかご」とよばれ、魚や貝などの産卵場や生育の場となるため、アマモ場が形成されることは生物多様性にとって大切なことです。

東扇島東公園の人工海浜（かわさきの浜）では、令和5年1月から4月まで毎月100株程度のアマモを確認しました。これだけの数の株が毎月連続で確認されたのは調査開始以来初めてとなります。水温や日射などの気象条件がアマモの生育に適していたこと、外部から種子が運ばれてきたことなどが要因と見られます。



調査年度	最大株数	確認した月
令和2年	96	8月
令和3年	4	6月
令和4年	20	5月
令和5年	100	1~4月

確認したアマモの株数

【調査の概要】

川崎市では、これまで河川や干潟、海域の水質・水生生物の調査を行い、水辺に生息する生物の生息生育状況を把握してきました。調査結果は、市内のよりよい水環境を保全することを目指して普及啓発などに活用しております。

今回の魚類の調査は、①引き網によって捕獲する方法と、②潜水士が潜水して観察を行う方法で実施しました。令和元年度及び令和2年度は年1回、令和3年度及び令和4年度は月1回の調査を実施しました。その結果、37種類の魚類を確認しました。

発見された魚類の一覧表及び写真は、次のWebページに掲載しています。

（川崎市 水辺の生きもの で検索）

URL：<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-3-6-6-0-0-0-0-0-0-0.html>

【問合せ先】

川崎市環境局環境総合研究所 中村
電話 044-276-9096
メール 30sotii@city.kawasaki.jp

- ・外洋の魚類を初発見、南方魚もみられた。 →数年間継続している**黒潮大蛇行**の影響
- ・アマモを多数確認 →水質・底質、気象条件を含めた環境が**生長に適合**していたこと、**種子の流入**などが要因

黒潮大蛇行



通常時は黒潮に乗ってきた南方魚が伊豆や千葉の沿岸で見られることがあるが、今回の発見は、大蛇行に乗って東京湾の近傍まで移動してきた魚が、湾の内部へ移動してきたものと考えられる。

テレビ取材・新聞取材対応

・テレビ神奈川 2023.10.14 放送

LOVEかわさき「かわさきの海を調査してみた！」

川崎の水環境改善により様々な生き物が増えてきた
実際に、リポーターさんと東扇島でアマモ探索

https://www.tvk-yokohama.com/lovekawasaki/2023/arch_1014-1.php

・NHK総合 2023.11.02 放送 **所さん！事件ですよ**

「北海道でフグが豊漁!?さかなクンと追跡する“海の異変”」
黒潮大蛇行の影響で、川崎にも南方魚がきた

以下、新聞等に掲載

- ・日本経済新聞
- ・神奈川新聞
- ・東京新聞
- ・タウンニュース



川崎みなと祭りへの出展

2023.10.7-10.8

- ・50周年を迎える川崎みなと祭り（東扇島東公園）にて**環境ブースを初出展**
- ・環境教室や展示を通じて**本市の生物調査研究の結果等**を市民に伝え、環境意識の向上を図った。（2日間で**500名**来場）
- ・**スナイプバレー合同会社、カワスイ川崎水族館**との連携



アサリの教室



タッチプール
（カワスイ
川崎水族館）



海洋ゴミを利用した輪投げ
（スナイプバレー）

スナイプバレー合同会社との連携について

目的

- ・本市は一般市民が海に親しめる場所が少ないため、市民の海の環境に対する関心は薄い。
- ・**海の生物**や、**海洋プラスチックごみ**や**海水温の温暖化等の影響**について調べ、結果を市民に広く周知し、**日常での行動を変容**させていく。
- ・**東扇島東公園人工海浜**周辺を、海の環境学習のフィールドとして確立していく。

研究内容

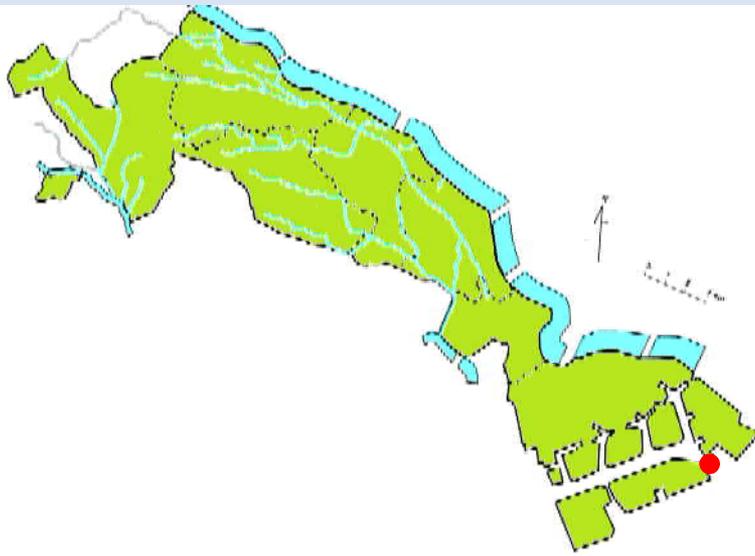
- ・東扇島東公園周辺海域における生物相の調査、および海洋プラスチックごみや温暖化などの影響に関する調査
- ・**本市の「連携型共同研究事業」**として実施

研究期間

- ・令和5年4月1日～令和8年3月31日
- ・令和5年度は4月（春）、7月（夏）、10月（秋）、1月（冬）に潜水調査および砂浜の調査を実施。



調査結果の一例 (2023年5月)



東扇島東公園 人口海浜 調査 (第2回) 2023年5月23日

- 天気: 雨
- 水温: 21度
- 透明度: 3~5m

★ マイクロプラスチック採取地点

岩場 (ヒガンフグ、メバル、ナベカ、ウミタナゴ、アカオビシマハゼなど)

スナヒトデ

貝の墓場?

ツルシラモの上を泳ぐドロマエの幼魚

ツメタガイの卵塊がいろいろな所に

タマシキゴカイの卵塊と糞

マハゼ

コアマキの繁茂

いろいろなごみ

コンクリート土台

大きな窪み 最大水深5.5m

タイワンガザミ

スニーカーにアカニシが産卵

ツルシラモが繁茂 横: 29m 縦: 50m

ツルシラモが繁茂 横: 7.5m 縦: 4.5m

横: 11.6m 縦: 3m

干潮時にツルシラモが打ち上がっている 砂浜

フレイトゲアメフラシの産卵

水深: -2.5m, -1.5~2.0m, -1.0~1.5m

70m, 59.3m

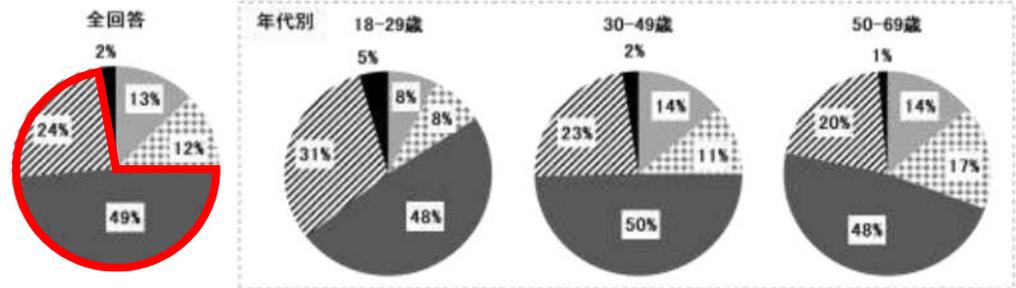
いろいろなごみ (Microplastic samples)

啓発動画の作成

課題

・「川・海などの水のきれいさ」のみ満足度が5割に至っていない。

・大気や水などの環境に関して、特段関心を示していない市民が一定数いる。



- 関心があり、新聞・ネットのニュースなどにくわえ、市のホームページやSNS、広報誌などを確認したことがある
- 関心があり、新聞・ネットのニュースなどを読んでいるが、市のホームページやSNS、広報誌などはみただけ
- 関心があるが、特に自分から調べたりしたことはない
- 特に関心はない(気にしたことがない)
- わからない

出典：大気、水などの環境に関するアンケート
(令和元(2019)年度調査)

課題解決に向けたアプローチ

● 市民に関心の高い「水生生物」をテーマに、地域ごとの水環境の状況を伝え、環境を大切にする意識を醸成する。

● 動画投稿だけでは影響は限定的なため、出前授業などを活用して、川や海の大切さを積極的に発信する

啓発動画の作成

動画の概要と作成計画

・丘陵部編（黒川よこみね緑地など）

→丘陵部域しか生息しない**貴重な生物の水環境**を発信

・内陸部編（ニヶ領用水や多摩川二子橋周辺）

→慣れ親しんだ川に棲む**身近な生物の水環境**を発信

・臨海部編（多摩川の河口干潟や海域）

→河口干潟や海域に棲む**多様な生物の水環境**を発信

・市内の丘陵部、内陸部、臨海部、それぞれ**5～10分程度**で作成。

・**R5**は内陸部編、**R6**は丘陵部編、臨海部編を作成予定

→内陸部編では、今年度開催の川の生きものと触れ合うイベント（多摩川教室とガサガサ体験）の様子を題材に、動画を作成

啓発動画の作成

動画の構成

内陸部編



撮影場所 二ヶ領用水・多摩川（二子橋周辺）

内容 慣れ親しんだ川に棲む身近な生物の水環境を発信

1. 撮影地点や地域の特徴について説明
2. 子どもたちが川に入り、生きものを
探す様子を映す
3. 現場で捕まえた生きものの紹介
4. 生息域と水環境の関係について説明
5. 生活排水や水質事故・ゴミの問題について
触れ、視聴者に当事者意識を持たせ、環境保
全に向けた行動を促す。



動画イメージ